

2022年度の主な事業報告書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

■事業実施の概要について

【森林が持つ機能を最大限に発揮するための「協働」の取り組み】

- ・山麓アクションプログラムに基づき、森林が持つ公益的な多面的機能を最大限に発揮する森づくりを目的として、市民が主体になって一定の役割をになう「協働」の取り組みを進めました。
- ・活動に必要な資金や労力を山林所有者や行政だけに求めるのではなく、幅広いネットワークやノウハウ、人材を活かして、情報の共有化と意見交換を通じた協議会などの活動、災害に強い森づくりの活動、人材育成や山林整備サポートなどの活動に注力しました。

【「自然緑地」の同意率向上と山林整備サポート強化に注力】

- ・2022年度は、新規に**4件**の山林所有者から「自然緑地」指定の同意をいただきました。
- ・**56件**(前年より5件増)の山林所有者からの山林整備ボランティア派遣要請を受けて、毎年増加する山林所有者からの要請に応えるため人材育成を目的とした山林整備ボランティア養成講座を2回開催し、のべ**537人日**の山林整備ボランティアが、冬の期間に山林整備サポートに参加しました。

【箕面市の補助金事業による山麓保全活動の着実な推進】

- ・箕面市の「みのお山麓保全活動補助金事業」を受けて、山麓保全活動を着実に推進しました。
- ・山麓保全委員会が山林所有者や市民団体に助成金を交付して山麓保全活動を行う事業、及び山麓保全委員会が独自で行う事業の二本立ての仕組みで推進しました。

【自立した山麓保全活動をささえる持続可能な財務体質づくり】

- ・箕面市からの「保全活動補助金事業」、大阪府からの「箕面ビジターセンター企画運營業務」収入に加えて、NPO法人としての山麓保全活動を支える三つ目の柱として、災害に強い森づくりなどの活動に共感していただいた個人や団体から**934千円のご寄付**をいただきました。※前年より377千円増
※計¥934,611(災害復興募金/預り金¥118,000、山麓保全委員会への募金¥816,611)

1. ネットワークを活かした「協働」の活動 《ネットワーク事業》 ～情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業～

①、こもれびの森での植樹などの活動

- ・生活環境保全林に指定されているこもれびの森で、今年で4年目になる活動を3月12日に行い、**41人**が参加し計**127本**を植樹しました。

タニウツギ	10本	ミツマタ	50本
ガマズミ	10本	アセビ	30本
ムラサキシキブ	10本	エノキなど	17本

- ・昨年、植樹したミツマタは、シカに食べられずに順調に生育しているため、今年は更に**ミツマタ50本・アセビ30本**を防鹿柵の外のハイキング道に植樹しました。※園芸業者に植栽を委託
- ・その他、タニウツギ・ガマズミ・ムラサキシキブ各10本、エノキ15本、ヤマザクラ2本の苗木計47本を住友ゴム工業㈱から寄贈を受けて防鹿柵の中や防鹿ネットを取り付けて植樹しました。
※別途、コナラの苗木**60本**を山麓部の里山管理4団体に配布。

《こもれびの森の植樹、及び管理に関わる収支実績》

支出	園芸業者への委託費	705千
780千	防鹿ネットや支柱などの資材費	75千
収入	災害復興募金(預り金)から	375千
780千	募金収入から	405千

- ・業者への植栽委託費用、防鹿用の資材購入など、活動に必要な資金は山麓保全委員会への募金や災害復興募金を活用しました。



こもれびの森の植樹活動



シカが嫌いなアセビを植樹

- ・大阪湾を見渡せるビューポイントになっているオケ原林道沿い2ヶ所に計3台、箕面の間伐材で製作した**ベンチを設置**しました。
※明治の森箕面自然休養林管理運営協議会/箕面里山工房製作



間伐材で製作したベンチを設置

②、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会を通じた情報共有化と意見交換の活動

- ・国・府・市などの行政と市民団体で構成する協議会の事務局を担い協議会例会を**年7回開催**し、情報の共有化と意見交換により、市民による自発的な行動発生の際になるように努めました。
- ・清水谷での生物多様性保全の活動を着実に実施した他、間伐材を活用したベンチの設置、森の案内板への**QRコード**取り付け、道標整備などの利用者の安全対策などの活動を実施しました。
- ・自然休養林の持続可能な活用を目的とした**巨樹・大樹調査**の活動を新たに開始しました。



森の案内図にQRコードを貼付

③、安心・安全を目的とした「道標や案内板」整備の活動

- ・明治の森箕面自然休養林管理運営協議会における道標や案内板の整備活動を市民が中心となって継続しました。
- ・現地調査グループによるナラ枯れ被害確認の活動は、不要となった防虫ネットを撤去する美化活動を行い、9月度を持って終了しました。
※2022年4月～2022年9月延べ58人日の活動
- ・箕面の山ハイキングマップ(裏面は教学の森とこもれびの森)の一部を改訂し、2022年度に**3,000部増刷**しました。



箕面の森 ハイキングマップ

④、増えすぎたシカによる食害対策の継続

- ・大阪府の生物多様性センターが行うシカの生息数調査に協力して箕面の山パトロール隊、みのお里ぶらなどによる自動撮影カメラのデータ回収や送付、維持管理などの活動を継続しました。

- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| シカ害
対策 | ①防鹿ネットの設置 | ②頭数管理(猟友会など) |
| | ③モニタリング調査 | ④市民への啓発 |

2. 山林所有者との関わり強化の活動 <山林所有者関連事業>

～山麓部の80%を占める民有地の課題に向き合う事業～

①、山林所有者へのPR・広報

- ・2022年度の助成件数は**4件増え**、87件となりました。
- ・2022年度の新規自然緑地の同意件数は4件でした。

②、山林整備ボランティアの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は**56件**(前年より5件増)の要請があり、のべ**537人日**(前年は592人日)のボランティアが、主に風倒木の処理などの山林整備活動を行いました。
※粟生間谷地区の1件、81人(前年103人日)を含む
- ・急傾斜地での不法投棄ゴミ撤去活動中に、斜面から滑落する**重大事故が発生**し、大きな課題を残しました。

③、山林所有者の悩み相談

- ・山林所有者を対象とした”悩み相談”チラシの配布を行い計**17件**の相談を受けました。
- ・高齢化が進む山林所有者から、相続に関連しての相談やボランティア派遣の問い合わせが多くありました。



箕面の山林をお持ちの方へ
お気軽にみのお山麓委員会にご連絡ください。

山林所有者の “なやみ”相談

大雨が降ると、山が崩れないか心配ですね。



自分の山がどこにあるか、ご存じでしょうか？

山林所有者の悩み相談

3. 山で活躍するボランティアや活動団体の育成

《人材・組織育成事業》

～課題に向き合い、活動を担う人材や組織を育成する事業～

①、「みのお森の学校」による山麓保全活動の人材育成

・2022年9月からの第18期(2023年6月修了)の人と自然の入門講座「みのお森の学校」は、受講生**21名**の参加で講座を開催しました。

②、「山林整備」を担える人材の育成

・年々増えている山林所有者からのサポート要請に応じて、活動を担うためのボランティア養成講座を2回開催し**11人**が参加しました。

③、人材育成のための「みのお山麓保全ガイドブック」の作成

・森の学校の受講生など、初めての人を主な対象とした「みのお山麓保全ガイドブック」(≒28ページ)の改訂活動に注力し、2023年上期に発行予定となりました。

④、「みのお森のセラピー」事業の再編

・冬季にセラピーアシスター養成講座を開催し、**7人**が受講しました。
 ・箕面ビジターセンターで「森の癒しウォーク・ハンモック体験」などを継続した他、音羽山荘の季節のお弁当を西江寺聖天閣で召し上がっていただく新企画を開始し、順調にスタートしました。
 ※森の癒しウォーク 参加者:35名(6回開催)
 ※With西江寺で季節のお弁当 参加者:21名(2回開催)
 ※フリーセラピー 参加者:3名(1回開催)
 ※林野庁セラピー(箕面ふれセン事業)参加者:5名(1回開催)1回中止



みのお森の学校



山林整備ボランティア養成講座



ハンモック体験

4. 事業への参加や理解と協力を得るための活動

《PR・広報事業》

～市民・会員・市民団体及び行政など関係者へのPR・広報の事業～

①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

・ハイキング道の通行止めなど安心・安全情報を中心に、精力的に「ブログ」を更新しました。(年**171回**)
 ・あわせて、トピックスやイベントカレンダーの更新、山麓保全活動の助成結果や山麓保全委員会の活動などの情報公開を行った他、ビジターセンターのイベント情報などを発信しました。



みのお山なみネット

②、ニュースレター「山なみ通信」の発行

・広く山麓保全活動に対する情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年**4回**(4・7・10・1月)発行しました。
 ・各所に配架するとともにNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」サポート会員などに、毎回約400人にDM発送を行いました。



みのお山なみ通信

③、広報・啓発イベントの開催

・新型コロナの影響で中止していた「山とみどりのフェスティバル」を3年ぶりに箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場として開催しました。参加したスタッフは**110名**、のべ参加者は**2,376人**(有料参加807人、無料参加1,569人)でした。
 ・10月23日に、「大阪府生物多様性地域戦略と持続可能な箕面の観光戦略」をテーマとして、生物多様性研究フォーラムを開催しました、**58人**が参加し、生物多様性の保全と適切な観光戦略に向けての理解を深めました。



山とみどりのフェスティバル

5. 山麓保全活動助成金の活用と円滑な運営のための活動

《山麓保全助成金交付事業》

～みのお山麓保全活動助成の仕組みを活かし、適正な執行を図る事業～

①、助成申請の促進、審査会開催、助成金交付など

- ・箕面市の補助金規定に基づいた助成金交付規定や審査会規定に則り、審査会を**2回**(2022年9月・2023年3月)開催しました。
- ・助成金申請書の受け付け、取りまとめ、議事録の作成、箕面市への書類作成などの助成事務全般を実施しました。
- ・JAバンクに助成金専用の銀行口座を開設し、助成金の振り込みに係る業務(計**103件**)をインターネットバンキングで行いました。
山林所有者への活動助成・・・ **計87件、9,028,800円**
市民団体への活動助成・・・ **計16件、2,156,500円**



山林整備サポート活動

《山林整備サポート活動の推進》

- ・山林所有者から山林整備サポート要請を受け、山林整備活動を行う5団体(みのお里ふら、箕面の森のきこり隊、箕面の山パトロール隊、箕面マウンテンバイク友の会、今井水利組合)に委託するなど、56件の山林整備サポート活動の円滑な推進を促進しました。



整備後の人工林

②、助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓保全活動の助成を受けた団体や山林所有者の活動の確認及び提出された報告書のチェックなどの事務を行いました。

6. 箕面ビジターセンター企画運営事業

《ビジターセンター事業》

箕面ビジターセンターの企画運営業務： 受託業務期間・・・2024年(令和6年)9月30日まで

①、自然解説活動

- ・ビジターの利便性改善のため、事務所周辺などで利用可能な「**無料Wi-Fi**」の提供を継続しました。
- 自然解説員の配置
・**年222人/日**の解説員を配置し、ハイキング道の案内や季節の自然情報などの発信を行いました。

○自然観察会などのイベントの開催

- ・観察会や工作教室などを年間60回計画し、**年57回**(前年は45回)開催しました。※雨天中止3回
※**参加者数721人**(前年388人)、**イベントスタッフ数296人**(前年158人)
- ・全て事前受付として、人数制限を行いながら、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して開催しました。

○展示室の企画運営

- ・展示室入口に設置したカウンターによる入館者数は、**年間7,016人**(5月と11月が1,000人超)でした。
- ・1階正面入り口での大型モニターによる箕面の自然と生き物を紹介する映像放映を継続しました。
- ・その他、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。

○自然情報誌の発行

- ・年4回、自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行しました。
※2,500部×3回+3,000部×1回=**年4回、計10,500部を発行**
- ・美しい写真などで人気が高い箕面ビジターセンターだより特集号(春・夏・秋・冬)、**日本語版**を各各1,500部/計**6,000部**、あわせて**英語版**を各1,000部/計**4,000部**増刷しました。

②、企画活動

- ・年9回「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他、自然情報やハイキング道の安心・安全情報の共有化を図りました。

③、PR・広報活動

- ・ホームページ「山なみネット」で、ビジターセンターのイベントや自然情報や安心安全情報の発信を行った他、イベント開催のチラシを作成し、各所に配架しました。

(注記) その他の事業の実施はありません。